

協働事業評価書

事業名「多文化子育て支援事業～子育て通訳サポート～」

事業主体：特定非営利活動法人わこう子育てネットワーク

担当課：総務人権課

評価者：協働推進懇話会（委員8名）

評価：◎他のモデルとなりうる ○適当である △工夫が必要

評価項目	評価【◎○△】	評価内容	評価【◎○△】	コメント
①事業の評価	◎3人 ○4人 △1人	事業スケジュール	◎2人 ○5人 △1人	<p>■事業のスケジュールに若干の遅れが出ているが、準備段階に必要な作業を行っていたので問題はない。サービスの利用が低迷していることは今後の課題である。</p> <p>■事業開始にあたって、法律的、事務的な課題のクリアに時間を要したのはやむを得ない。むしろ、2ヵ月程度しか遅れず、利用者募集を開始できたのはよかった。ただし、通訳利用者数が、当初目標に大幅に届かず、のべ5件であったというのは、ニーズ把握等に課題を残したといえ、今年度での改善が期待される。</p> <p>■担い手として、目標値以上の通訳サポーターの登録を達成したことは評価すべき項目だと考えます。通訳利用者数を増やすための工夫は行政のサポートも含め検討する余地があると感じました。</p> <p>■当事業はグローバル化・国際化と言われる市民生活の中で子育てに特化しているが、外国人居住者の増加している現状から、他事業への指針となる成果が見られ大いに評価ができる。</p> <p>■辿り着いていないニーズも含めてですが、現代のニーズに即した事業で、民間だけ、行政だけでは実現しにくい事業だと思います。これから実績が積まれますことを期待します。</p> <p>■・サポーター登録が予想を上回ったことは、課題と意義について十分に理解できる良い内容の養成講座だったと推測する。</p> <p>・サポート登録に至らないまでも、今後は隣人として友人として地域でサポートできるマンパワーの育成にも繋がったと感じる。</p> <p>■利用料を取ることが法的に問題無いかなどは事前に調査すべきであった。利用料を取った場合のニーズ調査をしっかりと行うべきであったと思われる。</p> <p>■・事業成果について、講座参加者数・通訳サポーター数は想定以上の成果があったが、通訳サポートの利用期間が半年間であったことを踏まえても、利用者が少ないと感じた。</p>
		事業成果	◎2人 ○1人 △5人	
②協働の評価	◎5人 ○3人 △0人	プロセスの積み重ね	◎4人 ○4人 △0人	<p>■協働のプロセスそのものについては、丁寧に実施されており問題ないと考えられる。</p> <p>■通訳サポーター登録者を、当初目標の20名の倍以上となる42名確保できたのは、大きな成果である。さらに、ネイティブの人材を確保できたのは、事業の広がりをもたらす効果があると考えられる。通訳人材の発掘という点において、高く評価できる。</p> <p>団体のもつ熱意やノウハウと、市のもつ信用や広報等のしきみが、うまくマッチして協働の形がとれていると考える。その他のところで、担当課から、「新しい事業であったため、整備や準備にとっても苦労した」とあるが、団体の熱意やノウハウがあるからこそ、他市にはないようなサービスを協働で生み出したことに自信をもっていただきたい。</p> <p>■事業実施団体、市の立場において役割分担は適切にできています。広域的な情報提供、情報を必要とする部署への連絡伝達は行政でできないことなので、その役割を果たしていることは事業実施団体の活動の支えになると感じます。事業提案と事業実施までのスキームは適当だと思います。</p> <p>■進捗状況の確認は常に行われ、問題が生じた時は専門家を交えての解決に努めるなど、新しい繋がりや連携が構築された。「子育て通訳サポート」を広く案内することで、多方面の組織と繋がる事が出来、協力が得られた事は事業の展開に効果的であった。チラシ配布や広報活動などは大いに評価できる。予想以上の参加応募があり、アンケートでも有意義だったとの声と利用者からの良かったとの感想は事業の受益者の満足を得る事ができたと思われる。協働の成果として、自分には何が出来るかを考え、役立つ情報を得て、自分のスキルを活かし達成感を味う事に喜びを感じたとの声は大きな成果であった。</p> <p>■市民満足度の向上という点に関しては、評価をするための母数がまだ不足しているのではないかと思います。大変意義のある協働事業と感じます。事業の広がりに関して、今後に期待できる部分が大きいと思います。</p> <p>■・新しい事業ということで団体・担当課共に苦労の跡が見られ、能力の高さが窺える。</p> <p>・着眼点も良く必要とされる事業だが、ニーズの拾い出しにやや不十分な印象がある。</p> <p>・幼稚園に向いて現場の声を聴かれたとの事なので、困り事の共有も含め、サポーター登録後、実践前に模擬的な研修会を行っても良かったのではないかと。</p> <p>・問題が多い分、担当課・団体双方の連携が良い形で行われたと感じる。特に団体にはこれまで以上の成長を感じ、それは協働事業のテーマの一つとも考える。</p> <p>■日本語を母国語としない子育て支援を必要とする方々のニーズとそれを支援しようという強い想いのある外国語会話が可能なボランティアが和光市民に多くいることを発掘出来たことはこの事業において大きな収穫であった。</p>
		事業の広がり	◎5人 ○3人 △0人	
		市民満足度の向上	◎1人 ○6人 △1人	
		協働基本原則	◎5人 ○3人 △0人	
		協働の成果	◎3人 ○5人 △0人	

			<p>利用料を取ることが事業の利用者にとっての大きな足かせになったかと思われる。事業の周知と行政の金銭的なサポートにより、今よりも低額もしくは無料で利用できる行政サービスとして今後も継続出来ると思う。</p> <p>■・団体、行政がしっかりと協議を重ねながら事業を進めてきたこともあり、想定以上の効果（講座参加者数、通訳サポーター数、サポーターからの事業協力等）が生まれた事業であったと感じた。</p> <p>・事業の広がりとして、通訳サポーターや講座の参加者に対し、団体、行政のどちらにおいても、今後もつながりを持ちつつ、事業そのものや団体活動にも参加できるよう期待する。</p>
<p>③総合評価 上記①、②以外のコメント (団体や市へのアドバイスを含めて)</p>			<p>■利用するユーザーの側に立って、もっとも利用しやすいサービスはどのような形態か、ということをもっと優先で、サービスの提供条件を検討する必要がある。市内在住の外国人に対する権利保障として重要な事業であるので、ぜひ普及に力を入れてほしい。</p> <p>■本事業は、選考時から、①通訳利用のニーズ把握はできているのか、②利用料をとらず言語保障すべき内容ではないか、ということが論点になっていた。</p> <p>①については、子どもと子育て家庭に関わる様々な行政機関や団体のネットワークを通じて、通訳ニーズのさらなる掘り起こしが期待される。②については、この協働事業の検証を通じ、金額の妥当性、さらには、利用者負担があることの是非、について検討が期待される。</p> <p>■「子育て環境」というテーマに限らず、社会的な課題と解決のためのアプローチは他のモデルになりうる素晴らしい取り組みだと思います。これだけの担い手を集め、やりがい（若干ですが謝礼）を生み出すことは非常に重要なことだと感じました。</p> <p>課題にもありますが、利用者を増やすための工夫は今後必要だと感じます。どこにニーズがあるか不明確なので、より具体的な機会を想定した周知が必要だと思います。子どもの成長に関わる行政的な機会（母子手帳発行時、乳幼児定期健診、幼保育園、学校の個人面談など）に対象となりうる方に情報提供するなど、行政がサポートすることも必要になるのではないかと感じました。</p> <p>また、他国での子育て経験がある人の話を聞くなど、具体的なニーズを想定する調査も効果があるのかなと感じました。</p> <p>継続性という観点では、担い手のフォローアップの機会、情報交換の場及びリスクマネジメントも大切だと思います。</p> <p>リスクマネジメントという点では個人派遣をしている業種（ベビーシッターや家事代行など）が類似するのではないかと感じました。</p> <p>■この事業を通じて、外国人を対象にした外国語での協働事業を遂行できる人材が豊富であるという事は、新たな目標の更なる取り組みを大いに期待いたします。</p> <p>■支援や利用は特定の人に限られるかもしれませんが、この事業が他の市民や地域への貢献度は高いものと思います（学校や保育園も助かる部分が多い点等）。これから益々、外国籍の方が運営に入って頂き、行政からもバックアップを続けて頂くことで、必要な人への情報が繋がっていくのではないかと思います。ぜひ、宜しくお願いいたします。</p> <p>■外国籍家族は和光市に転入すると決まった直後から少なからず不安を抱えると思います。不動産屋との連携、転入関係窓口などとの連携により、日常的なルールや生活面についてまず案内することからスタートし、その延長線上で幼稚園や学校への入園入学に伴う制度通訳が必要とされていくのではないのでしょうか。和光市の住民となるという視点に立ち返り幅の広い事業展開を望みます。</p> <p>■・団体のミッションからは外れるかもしれないが、「多文化共生」の観点から「子育て」以外の場面でも通訳サポートを受けられるよう、検討を進めてほしい。</p>